

桜井谷小学校だより

豊中市立桜井谷小学校 NO.14

令和8年(2026年)1月22日

校長 出口 裕子

学校教育目標  子どもが輝き 進んで学び ともに生きる みんなの学校

学校HPはこちら 

1月16日(金)地震避難訓練を行いました。

1995年1月17日 午前5時46分

阪神淡路大震災が発生し、私たちの大切なものを数多く奪っていきました。

今年も、震災で亡くなられた方を追悼するとともに、震災で培われた「きずな・支え合う心」「やさしさ・思いやり」の大切さを次世代へ語りついでいくため、神戸市中央区の東遊園地で「阪神淡路大震災 1.17のつどい」が行われました。(下記朝日新聞1月18日朝刊参照)

桜井谷小学校でも毎年この時期にあわせて「地震」の避難訓練を行っています。学校は『考えられる災害を想定し、その災害に対応した避難場所の想定と具体的な方法を共有し、その訓練をしておくこと』、『避難訓練は子ども自ら判断・行動する能力の向上を意識し、教職員と認識を共有しつつ、全体として主体的に動くことのできる訓練であることが大切』だと考えています。一般的に学校での避難訓練は教員が先頭に立って指示する「集団行動」型訓練になりがちですが、管理・誘導のみを意識し、子どもを指示の対象・受け身の立場に置くやり方では災害時に主体的に動くことのできる子どもは育ちません。子どもが自ら判断し・行動する能力を身に付けるためには、教職員と子どもが、起こり得る具体的な事態や避難の意味・あり方を共有しつつ、訓練を実施することが特に大切だと考え、今回の避難訓練も事前に地震が起きた時、自分はどうしなければならないのかを様々な場合を考えてイメージしてから臨みました。

656名の子どもたちの大切な『いのち』をお預かりしていることを改めて意識し、日々の取り組みを進めていきたいと思えます。

◆避難訓練を終えて・・・◆

避難訓練を終えた後、教室での振り返りとして、あるクラスでは絵本『ゆずちゃん』(ポプラ社)を使った読み聞かせが行われました。

子どもたちと同じように、保護者の皆様にも命の大切さについて考えていただくきっかけとして、手に取っていただけましたら幸いです。



＜学級通信より一部抜粋＞

この絵本は、小学生のたいち君の目線で、阪神淡路大震災でかけがえのない命と大きな夢を奪われたゆずちゃんという同級生の女の子のことが語られています。みんな真剣に聞いてくれました。たいち君とゆずちゃんのやり取りが、自分たちの日常にもありそうな感じで、二人を身近に感じたのかもかもしれません。自然災害は、いつ起こるかかわからない、「バイバイ、また明日ね。」と言って別れた友だちと明日会えるのが決して当たり前ではなく、奇跡のようなこと。だからこそ、隣にいる友だちを大切にしよう、家族を大切にしよう、そばにいてくれることに感謝して毎日を生きようと、私の思いを伝えました。

朝日新聞 1月18日(日)朝刊より

風化させない 私たちが

減る追悼行事 継承探る若者

今ここで 元気に会える奇跡

『1995 つむぐ 1.17』

「つむぐ」には震災を知らない世代が増える中、当時の記憶や教訓を誰かと分かち合いながら、未来につないでいくという思いが込められています。

豊中市では1月17日を「防災とボランティアの日」、1月15日～1月21日を「防災とボランティア週間」として様々な取り組みをしています。

その取り組みの一つとして、豊中市が備蓄している非常用保存食(右の写真)を毎年6年生児童に配っています。わかめご飯と一緒に配られているお手紙を次項に掲載しています。6年生以外のご家庭の皆さまもぜひ一読ください。



1月17日は「防災とボランティアの日」、1月15日～21日は「防災とボランティア週間」です。

「災害への備え」、大丈夫ですか？ もう一度、確認しておきましょう

= 豊中市からのお知らせ =

これまで私たちは様々なかたちで数々の災害を経験し、数多くの教訓を学びました。これらの教訓を忘れることなく大切に、いつ起こるかもしれない災害に備えることが大切です。

豊中市では災害に備え、本日も配りした非常用保存食などの生活必需品を備蓄しています。また、大災害時に緊急情報を流すため市立小学校等(41校)に同報通信システムの防災用スピーカーを設置しています。ご家庭でも1月17日の「防災とボランティアの日」を機に、家族全員で話し合ってみてください。(※お配りした非常用保存食は、賞味期限までにお召し上がりください。)

～防災は家庭から～

① 家の中には、危険なものがいっぱい！

家の中を見渡してみると、家具や本棚、テレビ、ステレオなど災害時には凶器となるものがいっぱい！高いところに重いものを置かない、家具などが転倒しないように固定する、ガラスが割れても飛び散らないように飛散防止フィルムを貼るなどの対策を考えましょう。

② 災害は家族一緒のときに起こるとは限りません！

例えば、平日の昼間に災害が起こったら、それぞれ職場や学校など家族はバラバラです。そこで、集合場所として家族の避難場所を決めておくことでよいでしょう。また、避難場所までのルートや互いの連絡方法を確認しておきましょう。

③ 家庭内の日ごろからの備えが大切です！

過去の災害で役に立ったものを参考に、家族構成に応じた「非常持出品」を準備し、リュックにまとめて、いつでも取り出せる場所に置いておきましょう。また、備蓄品として最低3日分の食料品や水(目安1人1日3リットル)を準備しておくことも大切です。

[非常持出品一例] 飲料水・食料品、救急薬品、懐中電灯、携帯ラジオ、現金、保険証、印鑑など]

《生活用品》

男性 15 kg
女性 10 kg
を目安に！

ラジオ・懐中電灯
両手を使えるリュックラックで準備を！

その他

衣類

医薬品

貴重品



3 3 3
l l l X 3日分～7日分

防災用スピーカーの一齐放送について

「防災とボランティアの日」にあたる1月17日、大災害時に緊急情報を流すため市立小学校や広域避難場所等に設置している同報通信システム(平成22年度 設置)の防災用スピーカーから下記のとおり一齐放送を行います。

市民の皆さまの防災意識の向上を図り、防災無線についての理解を深めていただくとともに、設備の動作確認を行い、いざという時に有効に機能するよう点検を行うものですのでご理解、ご協力頂きますようお願いいたします。

放送日時 令和8年(2026年)1月17日(土)8時45分

放送内容 こちらは豊中市危機管理課です。

本日は、全市一齐防災訓練を行います。9時より市内の小・中学校の体育館を避難所として開設しますので、訓練に参加しましょう。

この訓練をきっかけに、災害時の行動を確認するなど、防災について考えましょう。

また、1月17日は防災とボランティアの日です。

震災の教訓を忘れることなく、日ごろから災害に備え、いざという時に近所どうし助け合える関係を築きましょう。

備考

スピーカーからの放送音達範囲は概ね250m または300m (ただし、天候等の諸条件により音達範囲が異なる場合がございます。)

※毎年、下記日程で放送を実施させていただきます。
1月17日「防災とボランティアの日」
3月11日「東日本大震災 発災日」

お問い合わせ
豊中市危機管理課 TEL 06-6858-2071
FAX 06-6858-2667